

事業所名

ふくしのなら

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

2 月

10 日

法人（事業所）理念		未来に架かる画期的な業態の構築						
支援方針		出来ないことから、できる子に！						
営業時間		12 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康な体と心を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックを必要な対応を行う。その際、意思表示が苦手な子の障害の特性や発達の過程特性に配慮し、小さなサインから心身の異変に気付けるよう、きめ細かな観察を行う。来所時、毎回体温チェックを実施し健康状態を確認する。 またPT等が作成したプログラムに基づきSSTプログラムを主にしたりハビリを行う。						
	運動・感覚	感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。ラジオ体操で日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢下肢の運動・動作の習得を行う。感覚過敏な傾向にある子には、タイムアウトルールやイヤーマフを活用する。						
	認知・行動	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、適切行動への対応の支援を行う。プログラムの前に、児童に対して日付を質問し、数の概念の習得を図る。また、宿題の取り掛かりや外遊び等の開始時間を指導者と児童が個々に取り決めることで時計の理解を進める。						
	言語 コミュニケーション	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言葉の習得、自発的な発声を促す支援を行う。指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。PECSを活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできる様支援する。プログラムのスタートの際、簡単なルール説明を手伝ってもらうことで、意思の伝達の支援を図る。						
	人間関係 社会性	室内の色々なゲームや屋外の色々なボール遊びを指導者が介入しながら、集団参加を支援し、対人関係の発達を支援する。屋外のボール遊びにはサッカーやバスケット、野球等があり地域の小学生との交流を踏まえて、上手な人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。						
家族支援		保護者同士の交流の機会の提供（ピアの取組）、きょうだいへの相談援助等の支援、レスパイトや就労等の預かりニーズに対応するための支援を行う。			移行支援		進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助や移行に向けての様々な準備の支援。また、高校生の卒業後の就労支援等を、インターンシップを通してルール、マナー、職業観等を学び、将来に向けた就労意欲を高める。	
地域支援・地域連携		地域の小学生と共に、目的別にイベント参加する。			職員の質の向上		就労に関係する研修の機会を察して、積極的に研修参加して職員の質の向上を図る。	
主な行事等		クリスマス会、ハロウィン祭り、プール開き、縄跳び大会、マラソン大会等						